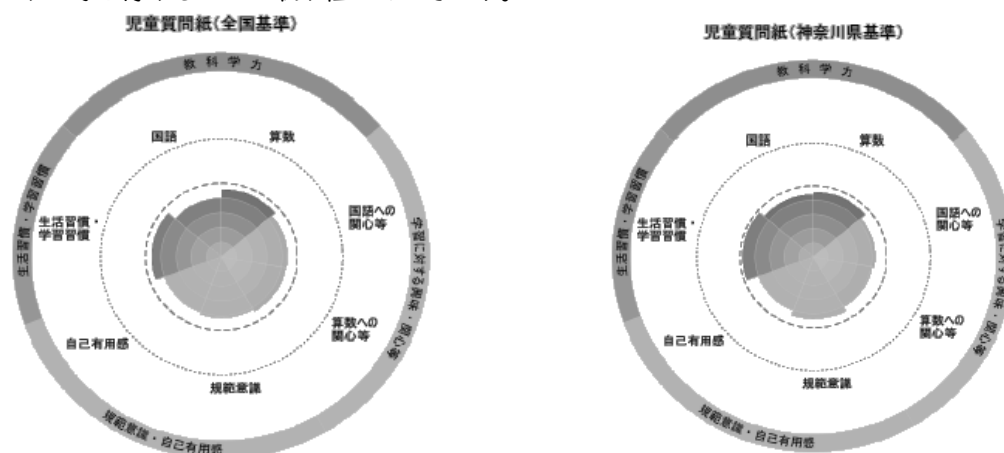


令和元年度全国学力・学習状況調査の結果報告

4月に6年生を対象として全国学力・学習状況調査が行われました。その調査結果が文部科学省より届きましたので、報告させていただきます。

学力に関しては、2教科で調査が行われました。今年度より「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式となり、調査結果にABの区分がなくなりました。そこで、教科ごとで結果が示されるようになりました。

また、児童への質問紙による学習意欲や学習環境、生活習慣等の状況についても調査が行われました。この調査結果をもとに、児童一人ひとりの力を付けることに取り組んでいきます。



【教科学力に関する調査結果】

全国および神奈川県の公立小学校と平均正答率を比較すると、2教科において全国、神奈川県の平均を下回っています。神奈川県の平均と比較して国語科は7%、算数科は4%低いという結果でした。評価観点から分析すると、国語科では、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」に低い傾向が見られました。一方で、「読む能力」については他の観点に比べ比較的高い正答率となりました。算数科では、「数量や図形についての知識・理解」が他の観点より低い傾向となりました。

【教科学力以外の調査結果】

児童への質問紙による調査結果から、国語科、算数科ともに学習に対する関心は全国および神奈川県の平均を下回っています。「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」に対して、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均より高い値を示しています。また、1日当たりの家庭学習の時間が「30分より少ない」と答えた児童の割合が全国平均を4%程度上回っています。

【まとめ】

教科に関する調査結果より、国語科では「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が低いことが分かりました。国語科だけでなく全教科を通して書くことを中心とした表現力の育成を図ったり、言語についての既習内容を日常生活で積極的に活用したりすることが重要だと考えられます。算数科では「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率が低いことが分かりました。基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、繰り返し問題に取り組んだり、学習形態を考え、個に応じた支援ができるような環境づくりを行ったりすることが重要だと考えられます。どちらの教科についても学習に対する興味・関心を高められる授業づくりを行い、主体的な学びができるように指導していきます。また、学習に対する興味・関心の高まりにともない、家庭学習に進んで取り組むことで結果に結び付くというよさを実感し、学習時間の確保につながると考えます。

質問紙による調査結果より、本校の児童は困難なことに対しても失敗を恐れずに挑戦するよさがあることから、一人ひとりの力に合わせて様々な経験をすることで児童が達成感や自己有用感を得られることが期待されます。

今後もご家庭と積極的に連携して学習や生活についての課題の改善を図っていきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。